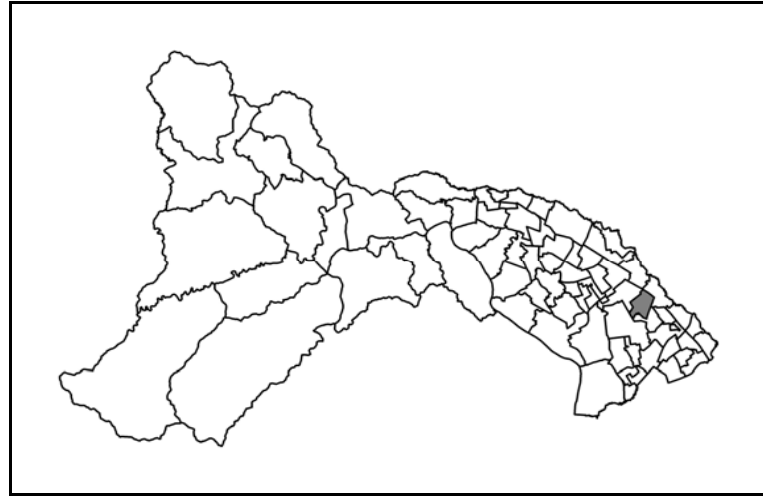


○地区を構成する町丁

【南区】大野台6丁目～8丁目、西大沼1丁目～3丁目

○位置図



○地区自治会連合会名(自治会名)

大野中(自治会法人大野台第一, 自治会法人大野台第二, 自治会法人大野台すみれ, コープ野村相模大野台, 自治会法人西一, 自治会法人西大沼二丁目, 西大沼中央自治会)

○地区概況

地区の中央部に南北方向の浅い谷がある。谷の部分は周囲より若干低いが、造成により平坦になっているところもある。北西部に浅い谷の中でもさらに地盤が低く、窪地になっている地域がある。北東端に沿って国道16号が通っている。東部は住宅地が多く、西部は主に樹林地である。

○建物数・人口

建物		人口	
区分	棟数	区分	人数
木造(昭和55年以前)	990 棟	0～4歳	428 人
木造(昭和56年以降)	1,816 棟	5～64歳	7,667 人
非木造(昭和55年以前)	77 棟	65歳以上	3,067 人
非木造(昭和56年以降)	371 棟	合計	11,162 人
合計	3,254 棟		

○所見

- ・浸水履歴が方々で見られる。台地上の浅い谷では、水が集まりやすく、その中のくぼ地では被害が集中している。
- ・地区の東部では住宅が密集しているところが多い。
- ・西部の樹林地は面積が広く、延焼遮断帯となる。
- ・富士山の大規模噴火時には2～30cmの降灰が予測されており、その場合、道路・鉄道の通行不能をはじめ、停電や取水停止など重大な被害を受ける。

○防災関連施設

市役所、まちづくりセンター、出張所等の主な公共施設	
警察署	
消防署	
消防団詰所	
病院等	
主な災害時要援護者施設	(仮称) ヒューマンライフケア株式会社, 介護付有料老人ホームアリビオこぶち壺番館
幼稚園、保育園	
学校、大学	大野台小学校, 大野台中学校
避難所	大野台小学校, 大野台中学校
※洪水時避難所兼用	
洪水時避難所	
広域避難場所	
防災備蓄倉庫	大野台中学校, 大野台小学校
※広域避難場所対応	
臨時ヘリポート	

○地震被害予測結果

	東部直下地震		西部直下地震		大正関東タイプ地震	
	被害量	比率	被害量	比率	被害量	比率
建物全壊	198 棟	6.1 %	20 棟	0.6 %	33 棟	1.0 %
建物焼失	55 棟	1.7 %	3 棟	0.1 %	0 棟	0.0 %
死者	13 人	0.1 %	1 人	0.0 %	2 人	0.0 %
閉込者	59 人	0.5 %	6 人	0.1 %	10 人	0.1 %
重傷者	12 人	0.1 %	1 人	0.0 %	2 人	0.0 %
軽傷者	74 人	0.7 %	23 人	0.2 %	31 人	0.3 %
避難所避難者(当日)	500 人	4.5 %	78 人	0.7 %	104 人	0.9 %
避難所避難者(1週間後)	977 人	8.8 %	372 人	3.3 %	454 人	4.1 %

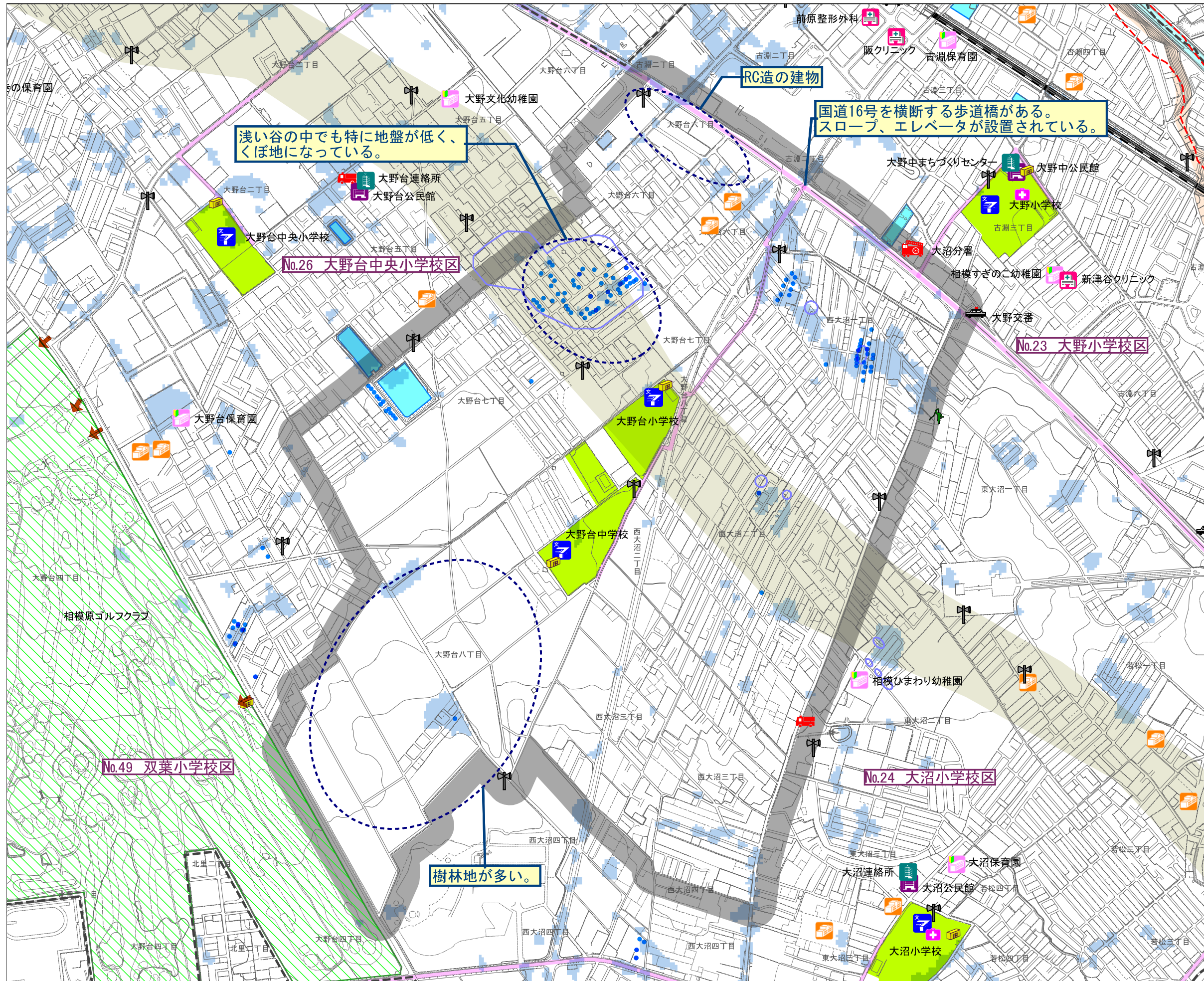
○災害危険度評価

危険度評価項目	→危険度が高い
水害	■■■■
土砂災害	■■■■
地震による地盤災害	■■■■
地震による建物被害、火災	■■■■

○近年の主な災害履歴

平成 1年 8月27日 床下浸水1戸  
平成 3年 9月19日 床下浸水70戸、床上浸水4戸  
平成14年 9月 9日 床下浸水4戸、床上浸水2戸  
平成20年 8月28日 床下浸水23戸、床上浸水4戸





凡 例

防災関連施設等

	市役所、まちづくりセンター等
	公民館、主な公共施設等
	警察署、交番、駐在所
	消防署
	消防団詰所
	病院等
	主な災害時要援護者施設
	幼稚園、保育園
	学校、大学
	避難所・洪水時避難所
	広域避難場所
	広域避難場所への車両進入可能箇所
	救護所
	防災備蓄倉庫
	ひばり放送塔
	雨水調整池
	臨時ヘリポート
	災害時協力井戸
	緊急輸送路
	小学校区境界
	地区自治会連合会境界

地形分類

	山地・丘陵地
	低地
	台地
	台地上の浅い谷
	段丘崖
	山麓堆積地形・扇状地
	人工地形

災害履歴

	浸水があったところ
	土砂災害があったところ

災害危険箇所等

	重要水防区域
	浸水想定区域(河川氾濫)
	浸水想定区域(内水)
	浸水被害警戒地域
	土石流危険渓流
	土石流危険区域
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所

書き込み欄


みなさんが知っている防災の情報を記入しましょう(例: 浸水しやすいところ、防火水槽の位置など)

